

2020年10月11日(日)朝10:10
10月第2共同主日礼拝式説教

聖霊降臨節第20、役員会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：主による満腹の食事(23～)

聖書:マタイ 15章32～39節

<口語訳>

新約聖書25～ 頁

マタイ 15章32～39節

<新共同訳>

新約聖書31～32頁

マタイ 15章32～39節

<新改訳第3版>

新約聖書31～32頁

マタイ 15章32～39節

<塚本訳>

新約聖書115～116頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓・説教と表現される箇所です。
- ◇本日は**マタイ15:32～39節**の「**主による満腹の食事(23～)**」の箇所から「**神(天)の国**」(「**神の真理・真実**」)を知りたいと存じます。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、3日間の旅をして、「同行した群衆」にマガダン地方の荒野の乾燥地で、弟子たちが集めた7つのパンと魚少々で、満腹するほどの食事を4,000人以上に提供して下さったのです。
- ⇒5,000人の給食、最期の晩餐と合わせ、主の記念、「主の十字架」を示す、しるしとして行われたものと言われます(**KT師**)。
- ⇒主は、**神のパン・神のみことば**で、私たち(群衆)を荒野・不毛の生活の中で、養ってくださるのです。
- ⇒主は、今日も、どのような荒野にせよ、不毛の生活に必要な日用の糧を与えて下さいます。

本論；

◇本日、**マタイ書15:32～39節**から主の**使信**に**思い・心**νοῦς(nouj)をとめます。

◆**マタイ15章32～39節**；使徒**マタイ**は、「**主による満腹の食事**(23～)」との主のみことばを通して、「**神(天)の国**」の隠されている「**神の真理・真実**」を示しています。

◇**15:32～39節**；塚本訳◆**四千人のパン**

「32 イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた、「群衆がかわいそうだ。もう三日もわたしをばなれずにいるので、何も食べるものを持っていない。空腹のまま帰したくない。途中でへたばってしまうかも知れない。」

33 弟子たちが言う、「この荒野で、いったいどこから、こんなに大勢の人を満腹させるほど沢山のパンを買って来ましょうか。」

34 イエスが言われる、「手許にいくつパンがあるか。」「七つ、それと小魚が少しです」とこたえた。

35 イエスは群衆に命じて地面にすわらせ、

36 その七つのパンと魚とを(手に)取り、(神に)感謝して(パンを)裂き、弟子たちに渡さ

れると、弟子たちは群衆に渡した。

37 皆が食べて満腹した。そして余った(パンの)屑を拾うと、七つの籠に一ぱいあった。

38 食べた者は、女、子供ぬきで、男四千人であった。

39 イエスは群衆を解散させたのち、舟に乗ってマガダン地方に行かれた。と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

⇒**マタイ15:32~39節**は、「イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた、「群衆がかawaiiそうだ。もう三日もわたしをはなれずにいるので、何も食べるものを持っていない。空腹のまま帰したくない。途中でへたばってしまうかも知れない。」(32)「弟子たちが言う、「この荒野で、いったいどこから、こんなに大勢の人を満腹させるほど沢山のパンを買って来ましょうか。」(33)」、「イエスが言われる、「手許にいくつパンがあるか。」「七つ、それと小魚が少しです」とこたえた(34)。「イエスは群衆に命じて地面にすわらせ(35)、その七つのパンと魚とを(手に)取り、(神に)感謝して(パンを)裂き、弟子たちに渡されると、弟子たちは群衆

に渡した(36)。「食べた者は、女、子供ぬきで、男四千人であった(38)。「イエスは群衆を解散させたのち、舟に乗ってマガダン地方に行かれた」と、**マタイ**は「淡々と主のわざ」を記録しています。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、「この給食」によって、「主の十字架のしるし」を「弟子たちに」、暗に示して、「エルサレム」への最後の旅に向かわれるのです。

⇒「群衆」との決別と同時に、弟子たちとの決別が近いことも、暗示しておられました。弟子たちとの最後の舟旅でした。カペナウムの南東マグダラからベツサイダへ渡り、ヘルモン山で静まり、再び、カペナウムに帰り、南下されて行きます。

⇒主は、群衆には、食事で満腹させ、主の弟子には、主のみことばと交わりによって満ち足らせたの旅とされました。

⇒主は、群衆を「かわいそう」と言われましたが、これは、「腹が痛む」という意味で、それほど、主は群衆を思っていることを弟子に話されたのです。弟子たちが、無関心だからです。

⇒教会も、悲惨な、貧しさに喘いでいる人々に冷淡なことがあります。同時のデカポリス地方は、病気、偶像等で、悲惨な生活をする人々が多く、しかも異邦人が多かったのです。**神**の選民意識がまだ強かった弟子たちが冷たかったのには、そのこともあったと思われます。

⇒主は、明らかに弟子たちに質問して、弟子が提供したパンと魚少々を弟子たちに渡して分配させておられるのです。

⇒私たちの手の中にも、人々に提供できるものを託して下さいます。

⇒Ⅱコリント6:1;【口語訳】

- 1 わたしたちはまた、神と共に働く者として、あなたがたに勧める。神の恵みをいたずらに受けてはならない。
- 2 神はこう言われる、「わたしは、恵みの時にあなたの願いを聞きいれ、救の日にあなたを助けた」。見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
- ◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。
- ◇本日は**マタイ15:32～39節**の「**主による満腹の食事**(23～)」の箇所から「**神(天)の国**」(「**神の真理・真実**」)を知りたいと存じます。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、3日間の旅をして、「同行した群衆」にマガダン地方の荒野の乾燥地で、弟子たちが集めた7つのパンと魚少々で、満腹するほどの食事を4,000人以上に提供して下さったのです。
- ⇒5,000人の給食、最期の晩餐と合わせ、主の記念、「主の十字架」を示す、しるしとして行われたものと言われます(**KT師**)。
- ⇒主は、**神のパン・神のみことば**で、私たち(群衆)を荒野・不毛の生活の中で、養ってくださるのです。

⇒主は、今日も、どのような荒野にせよ、不毛の生活に必要な日用の糧を与えて下さいます。

⇒1ペテロ4:10~11;【口語訳】

10 あなたがたは、それぞれ賜物をいただいているのだから、神のさまざまな恵みの良き管理人として、それをお互のために役立てるべきである。

11 語る者は、神の御言を語る者にふさわしく語り、奉仕する者は、神から賜わる力による者にふさわしく奉仕すべきである。それは、すべてのことにおいてイエス・キリストによって、神があがめられるためである。栄光と力が世々限りなく、彼にあるように、アアメン。